

ちょっと気になるデータ解説

厳しい就職内定状況

高校、大学の平成22年3月卒業生にとっての厳しい就職活動などが報道される中で、就職内定状況に関する調査（実施時点では「卒業予定者」を対象）からも、内定率や求人数などが前年より落ち込んだ実態が明らかになっている。企業を対象とした意識調査をみても、その採用意欲は低下している。

当機構が実施しているビジネス・レーパー・モニター調査（本年3月実施分、本誌38～42頁に内容を掲載）によると、2008年秋から本年3月までに実施した雇用面の調整策として、「新卒採用の抑制」をあげた企業・事業主団体は40.9%に達している。このような状況にあって、本年3月卒業の就職希望者にとっても、その就職活動はたいへん厳しかったことが、以下のデータからも見えてくる。

厚生労働省と文部科学省が3月に発表した「平成21年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」（平成22年2月1日現在）によると、大学の就職内定率は80.0%で、前年同期を6.3ポイント下回った。(1) 2月1日時点の結果が公表されている2000（平成12）年以降では最低の水準となっている。昨年以前で2月1日時点の就職内定率が最も低かったのは2000年卒業生の81.6%で、同年4月1日時点の就職率は92.1%だった（4月1日時点の就職率が最も低かったのは02年卒業生の89.7%）。

2月1日現在の就職内定率の内訳をみると、男女別では、男子が80.1%（前年同期比マイナス6.4ポイント）、女子が79.9%（前年同期比マイナス6.3ポイント）。文理別では、文系が78.7%（前年同期比マイナス7.8ポイント）、理系が86.2%（前年同期比マイナス1.9ポイント）で、文系の落ち込みが大きい。

就職活動の厳しさは、就職希望率の低下からもうかがえる。本年2月1日現在の就職希望率は72.1%であり、前年同期を2.1ポイント下回っている。男女別では、男子が66.5%（前年同期比マイナス2.4ポイント）、女子が79.9%（前年同期比マイナス1.6ポイント）で、女子のほうが前年と比べた落ち込みは少ない。大学卒業予定者の就職希望率は、就職内定率が下がるとそれに伴って低下する傾向がみられる（表1）。

表1 大学新卒者の2月1日現在の就職内定状況調査の推移

単位:%、ポイント

	2000年2月	2001年2月	2002年2月	2003年2月	2004年2月	2005年2月	2006年2月	2007年2月	2008年2月	2009年2月	2010年2月
就職内定率	81.6(▲7.1)	82.3(0.7)	82.9(0.6)	83.5(0.6)	82.1(▲1.4)	82.6(0.5)	85.8(3.2)	87.7(1.9)	88.7(1.0)	86.3(▲2.4)	80.0(▲6.3)
就職希望率	66.4(▲3.0)	66.9(0.5)	67.5(0.6)	68.3(0.8)	66.9(▲1.4)	69.5(2.6)	71.4(1.9)	71.8(0.4)	73.8(2.0)	74.2(0.4)	72.1(▲2.1)

()内は、対前年同期差。

資料出所：厚生労働省、文部科学省

一方、厚生労働省が3月に発表した「平成21年度高校・中学新卒者の就職内定状況等」（平成22年1月末現在）によると、高校新卒者の就職内定率は81.1%で、前年同期を6.4ポイント下回った。また、高校新卒者の求人倍率は1.17倍となり、前年同期を0.55ポイント下回った。男女別では、男子が84.7%（前年同期マイナス6.1ポイント）、女子は76.5%（前年同期マイナス6.8ポイント）だった。

近年の就職内定率および求人・求職動向の推移をみると、景気動向を反映して、求人数の増減が激しく、とくに本年1月末日現在では、前年同期に比べて40.6%低下している（低下幅は平成以降で最大）。これに対し求職者数は、少子化と大学等への進学率の上昇に伴い、近年減少傾向にある。(2)

表2 高校新卒者の1月末日現在の就職内定状況調査の推移

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
就職内定率 (%、ポイント)	79.3 (▲4.4)	80.5 (1.2)	75.7 (▲4.8)	74.4 (▲1.3)	76.7 (2.3)	81.6 (4.9)	85.3 (3.7)	88.1 (2.8)	89.4 (1.3)	87.5 (▲1.9)	81.1 (▲6.4)
求人数 (人、%)	252,775 (▲28.1)	258,829 (2.4)	228,274 (▲11.8)	202,430 (▲11.3)	208,314 (2.9)	244,783 (17.5)	283,912 (16.0)	325,384 (14.6)	339,674 (4.4)	318,351 (▲6.3)	189,063 (▲40.6)
求職者数 (人、%)	218,705 (▲11.3)	219,998 (0.6)	204,656 (▲7.0)	191,540 (▲6.4)	188,976 (▲1.3)	188,493 (▲0.3)	189,136 (0.3)	191,787 (1.4)	189,551 (▲1.2)	185,546 (▲2.1)	161,333 (▲13.0)
求人倍率 (倍、ポイント)	1.16 (▲0.27)	1.18 (0.02)	1.12 (▲0.06)	1.06 (▲0.06)	1.10 (0.04)	1.30 (0.20)	1.50 (0.20)	1.70 (0.20)	1.79 (0.09)	1.72 (▲0.07)	1.17 (▲0.55)

()内は、対前年同期比または差。

資料出所：厚生労働省

(調査・解析部 主任調査員 吉田和央)

- (1) 「大学等卒業予定者の就職状況調査」では、全国の各校の中から設置者・地域の別等を考慮して抽出した大学（平成21年度においては、国立大学21校、公立大学3校、私立大学38校）を対象とし、調査対象学生の動向から就職希望者数および就職（内定）者数を推計している。これに対し、「高校・中学新卒者の就職内定状況等調査」は学校・公共職業安定所の紹介を希望する生徒の状況をまとめたものである。なお、本稿で取り上げた以外の就職内定状況については、「最近の統計調査より」（本誌58頁）を参照されたい。
- (2) 高校卒業生の進学状況については、本誌2008年12月号本欄を参照されたい。